



営農NEWS



ハクサイの主な病害虫の薬剤防除

ハクサイの生育中には、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、コナガ、タマナギンウワバなどチョウ目害虫やカブラハバチなどによる食害を生じたり、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などを発生します。これらの対策として、生育の初中期を対象に、ベリマークSCやジュリボフロアブルなどを育苗期後半に灌注処理、ジェイエース粒剤などを定植時に植穴処理などが行われており、薬剤によって処理後2週間~1か月くらいの防除効果が期待できます。

しかし、定植前や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃から、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まり、発生に気づかず防除が手遅れになってしまうと、幼虫の食害などによる著しい商品価値の低下や減収を招いてしまいます。

現在、県病害虫防除所のフェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数は、平年よりやや少ない状況ですが、向こう1カ月の長期予報(9月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平均気温は高い確率70%と予想されていますので、今後ともハクサイを注意深く観察し、各種害虫の発生初期に薬剤防除を徹底してください。

一方、今年は8月中旬まで高温少雨が続く、育苗管理等に苦慮したことと思いますが、9月に入ってから台風や雷雨等の影響で障害を受けたハクサイ株もあり、今後、降雨が続く場合には各種病害の発生にも十分注意が必要です。べと病や白斑病、軟腐病、黒斑細菌病、黒斑病などの予防および早期発見と早期防除が重要になります。

病害虫が発生した場合には、下記を参考に、早めに薬剤防除を行って被害の抑制に努めてください。

表1 ハクサイ害虫の本圃における主な防除薬剤 (令和元年9月25日現在)

薬剤名	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	コナガ	タマナギンウワバ	カブラハバチ	アブラムシ類	分類
アニキ乳剤	○		○	○		○		6
プレオフロアブル	○	○		○				un
ファルコンフロアブル	○	○						18
アクセルフロアブル	○	○	○	○		○		22B
ディアナSC	○	○	○	○	○(ウバ類)			5
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○					28
コテツフロアブル	○	○		○		○		13
アタブロン乳剤	○	○	○	○	○			15
サイアノックス乳剤	○	○		○	○		○	1B
スカウトフロアブル	○	○		○			○	3A
ハチハチフロアブル	○			○			○	21A
スタークル顆粒水溶剤							○	4A
ウララDF							○	29

注1) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

注2) コナガは殺虫剤抵抗性が発現しやすく、現在、IRAC分類コード:28(ジアミド系剤のフェニックス顆粒水和剤など)では殺虫効果の低下した事例が見られます。この場合は、他分類(コード)の薬剤で防除してください。

表2 ハクサイ病害の主な防除薬剤 (令和元年9月25日現在)

薬剤名	べと病	白斑病	軟腐病	黒斑細菌病	黒斑病	菌核病	分類
ダコニール1000	○	○			○		M5
ベンコゼブ(ジマンダイセン)水和剤	○	○			○		M3
オーソサイド水和剤80	○	○			○		M4
ストロビーフロアブル	○	○			○		11
プロポーズ顆粒水和剤	○	○			○		40とM5
シグナムWDG	○	○			○	○	7と11
ランマンフロアブル	○						21
ホライズンドライフロアブル	○						11と27
ロブラール水和剤		○			○	○	2
トップジンM水和剤		○				○	1
バリダシン液剤5			○	○			U18
カセット水和剤			○	○			24と31
スターナ水和剤			○	○			31
アグリマイシン-100			○	○			25と41
Zボルドー	○		○	○			M1

注1) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040